



十和田市立中央病院

病院ニュース

さわらび

令和7年新春号



新年の挨拶



検証し再生へ

十和田市立中央病院
病院事業管理者

たんの ひろあき
丹野 弘晃

明けましておめでとうございます。本年は巳年。へビは脱皮を繰り返しながら成長することから、「生命力」や「再生」のシンボルとされています。あやかりたいものです。

表題の「検証」ですが、医師の働き方改革が本格的にスタートして9か月あまり経過し、時間外労働が削減されているのか、休息を取りながら効率的な働き方ができているのか等のデータに基づいた振り返りが必須です。併せて、この改革は地域医療へ影響していないのか、の視点が最も重要ではないかと思えます。この点に関しては、皆さんの忌憚のないご意見をいただきたいものです。さらに当院としては、人件費、物価高騰が病院経営に大きな影響を及ぼしている中で、働き方改革を進め、医療の質を担保しながら、病院機能を如何に維持していくのか、という大変悩ましい問題に直面しています。この課題は、住民の皆さんも含めた地域全体で共有したい最重要案件です。

そして、巳年に懸けて「再生」という表題も加えてしまいましたが、当院も含めて我が国全体の病院経営が正直瀕死の状態です。死にかかったものが生氣を取り戻すことが再生ですので、今年最大の目標になると考えています。医療は労働集約型事業ですので、専門職である人への投資は事業遂行のために当然のことであり、人件費増に関してはむしろ好ましい傾向だと考えることもできます。となると、病院運営再生のカギは、専門職の皆さんの労働生産性を如何に向上させるかに集約されると思えます。

労働生産性向上を考えると、自施設で取り組むべきことと地域全体で取り組めることがあると思えます。自施設では、タスクシフト/シェアの促進や医療DXの導入などによる業務の効率化を、今以上に強力に推し進めなければなりません。地域全体では、地域医療連携推進法人「上十三まるごとネット」内での専門職人財の有効活用やより密な情報共有による業務の見直し等が行えると思えます。この法人への参加についても、前向きにご検討いただければ幸いです。

現実を検証し、再生に繋げるという努力を継続しなければ、地域医療を守り続けることが難しい時代であるという強い危機感があります。是非皆さんと共にこの大きな変化に適応しながら前進して参りたいと思えますので、本年もどうぞよろしくお願いたします。

